

# 同じ過ちを繰り返すことなく、総団結で新生JR東労組運動を定着させよう！

山口中央執行委員長あいつじ(要旨)

今定期中央委員会の主要な課題は、昨年の18春闘の大敗北を踏まえて19春闘をどのようにたたかつかを決定することです。組合員はもとより、組織の内から非常に注目されている委員会ということを認識し、建設的な議論をつくり出すことをお願いします。

第37回臨時大会の方針として掲げ、今委員会のスローガンでもある「JR東労組の存亡をかけた2022年を展望し、未来を切り拓く」たたかいは実現するために、現在の組織現実を生み出してしまった根拠を正しく総括し、二度と同じ過ちを繰り返すことなく、組織拡大と新生JR東労組運動の定着のために奮闘しようではありませんか！

## 19春闘は堂々と一律べアを要求する

19春闘方針は、連合方針、JR総連春闘方針を基礎として、18春闘での「闘争1号」の議論に踏まえて練り上げました。べア要求は、一律6,000円。グリーンスタッフやエルター組合員に対しても同様の一律6,000円の引き上げにより待遇改善を図っていきます。

## 「闘争1号」の議論経過を正確に振り返り、確認事項を明確にして会社と向き合っていく

昨年、闘争1号の交渉終了時(2月26日)と、賃上げ要求の回答日(3月16日)に、組合員向けに文書を発行しました。文書では、闘争指令解除を提出するに至った根拠、交渉確認事項、今後直面する課題などについて触れ、特徴的には『所定昇給額にこだわらない』というところは、格差の根幹にあった『所定昇給額の活用方法』について、会社の考え方を要した。これは戦術行使まで高めてたかた闘いの成果だ」と記載しています。

しかし、闘争1号の交渉の現実には、「所定昇給額に基づく方法は時々の情勢に合わせて使うこともある。全否定はできない。基本給改定は物価水準、生活向上だけではない。生産性向上に対する社員への配分では、職責、職能などを勘案する必要がある。そこが組合と認識が違っていると会社は答え、所定昇給額」に対する考え方を要したわけではなく、会社のべアに対する考え方をより強く押し出してきたということ。また、「べアの考え方に對する確認事項」では「所定昇給額にこだわらない」という記載だけで、「所定昇給額による手法の場合もある。毎年、その都度議論していく事柄である。将来にわたって行わないということではない」ということが抜け落ちていきます。配分の仕方最終的に合意してきたことが抜け落ちていきます。さらに「格差を

## 組織混乱を招く一切の妨害・破壊行為を許さない

1月29日、JR総連と中央本部に53ページもの文書が送られてきました。最後のページに「文責」として、現在制裁審査中の14名の名前が連記されています。全日本委員長会議で確認したところ、誰も知らないという文書ではありませんが、この文書の内容は、彼らなりの18春闘総括を持ち出し、現執行部を「残存・御用執行部」と罵り、19春闘については「3年連続『所定昇給額』にこだわらない回答を引き出すこと」など方針を打ち出しています。制裁審査中の者たちが、独自の総括と方針を打ち立てることとは、大会決定を無視し混乱を持ち込むもの、団結と統制を乱す行為です。臨時第15回中央執行委員会において議論し、この文書は組織破壊文書であることを決定しました。

## 共にたたかう仲間を拡大し 平和な社会を守ろう

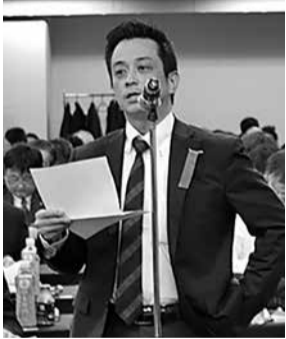
今年は選挙が集中する年です。国の不正が蔓延り、国民への犠牲が強いられる現代だからこそ、共にたたかう仲間を拡大し連帯を強めて民衆の力を発揮していかなければなりません。昨年10月の青森市議会議員選挙では、盛岡地本、青森支部の仲間の奮闘もあり、組織内候補・秋村光男さんが見事勝利を手に入れることができました。組織のリーダーが力を合わせ、実践の中からJR東労組組織を実感した教訓的なたたかいは全地本に展開し、組織内候補、推薦候補の勝利に結び付けていきたいと思います。参議院選挙でも厳しい組織現実が明らかになっていきます。JR総連と共に連合の参院選方針を担うために、地方独特に築き上げた関係を基盤として取り組みをつくり出したいと考えています。今後、政治担当者との議論を行いながら、個別具体的に取り組んでいきます。

組合員は一刻も早く、JR東労組の強固な団結がつけられることを望んでいます。今定期中央委員会に打ち出した方針を各委員の皆さんの議論で豊富化していただき、納得と共感の持てるたたかいはつくり出していきたいと思えます。中央本部はこれからは困難な現実を切り拓く、その最先頭で奮闘することを明らかにし、あいさついたします。

# 主な発言

## 職場の具体的な運動を学び 組織強化・拡大につなげよう

今、組織拡大に取り組みないと先はない。1月に組織拡大プロジェクトを立ち上げ、共に担う組合員を意識しながら議論を積み重ねた。仲間にも裏切られたという認識から抜けきれずにいたが、一歩前に出て実践している(秋田)▼臨時大会方針を拒み、必死になって取り組む組合員がいるからこそ、組織が強化されている(盛岡)▼これまでも同じ認識では「新生JR東労組」ではなく、失った信頼を回復できない(秋田・横浜)▼旗開きに脱退した4名が参加してくれた。この端緒は、八戸設備連合分会の脱退した方と向き合ってきた職場実践を学んだことだ。脱退を余儀なくされた方との壁をつくらず「戻ってこい」とアプローチし続けることが重要(大宮)▼脱退を余儀なくされた方に何度も会って議論し、本人の脱退理由を解消すること2名の仲間が加入を決意した(横浜)▼今は時代が変わり、組合ありきではない。組合がなくても会社が守っていく」と現場長から言われたが、果たしてそうだろうか。労働組合の必要性を感じている人が多くいる中で、脱退した方との関係を継続してつくり出し、仲間が加入を決意した(長野)▼職場では対話を繰り返す行い、全組合員が担える運動をつくり出してきた。また、脱退した方との関係を築き、地道ながらも積み上げてきた結果、1名が加入を決意した(仙台)▼再加入を訴えられる青年部員を育成していくことが課題。再加入という教科書はなく「いつ・誰が・誰と・どうするか」を明確にして取り組んでいく。「俺たちが守るから戻ってこい」と職場で力強く訴えていく(盛岡)



職場の具体的な運動を学び 組織強化・拡大につなげよう

## 職場の仲間との議論 実践を通じて 職場問題を克服しよう

▼会社の安全軽視の姿勢に危機感を持ち、安全推進委員会やCSS会議などを、分会の役員が主体的に担い議論をつくり出している(秋田)▼ダイヤ改正において効率化行路が目論まれ、職場の要員を限界まで減らす狙いがある。たたかいは押し返しているものもあるが限界がある(東京)▼ダイヤ改正で、拘束時間21時間超えの行路が検討された。分会の運転士分科会の仲間が会社の行路検討委員会を担い、集約した切実な意見をもとに議論を積み重ね、極端に長くなる拘束時間を解消した(千葉)▼全国統一で施

策が進められている。地方の慣行が意図的に壊されている(東京)▼働き方について、会社施策も社会全体の流れに則っている。申13号交渉では労働時間管理のあり方について、改めて法令違反を防ぐ視点で点検・トレーニングを行うことを確認した(きかく)▼乗務員基地再編で、大館運輸区が廃止になることから、連日職場集会を開催した。先輩から「分会は職場がなくなる前提で議論を進めていないか」と指摘を受け、大館運輸区の役割・必要性・使命について議論し積み上げてきた。噂に振り回されず、組織方針を練り上げ、職場に根ざした運動をつくり出す(秋田)▼特急一人乗務のたたかいは含め、向かうべきは会社である。労組法を駆使し第三者機関を活用すべきだ。組合員がついてきている。社会が賛同し、他労組は絶賛している(水戸)▼新幹線の業務変革について、現場では十分な説明が行われていない。解明交渉を通じ、異動・採用・ライフサイクルなど現行通りで行うことを明らかにしてきた。課題が残るが、解決に向けて職場に根ざした部会運動を展開していくと共に、部会の本部役員一人として責任を持っていく(運車)▼職場で発生した事象に対して、原因究明委員会を繰り返し開催。職場でチェック機能を発揮しなければ、間違いなく生産性向上になる(八王子)▼不当転勤のたたかいは通じて、会社が責任追及に回帰していること、会社の姿勢を正すのはJR東労組であることを明らかにしてきた(盛岡)



## 12地本の総団結で19春闘をたたかいていく

▼水戸・東京・八王子地本から、本部も地本も了承していない討議資料が支部に送られてきた。組合員は、この現実に見られている(秋田)▼3地本の討議資料が支部に送られてきた。3地本に確認すると「私に言われても困る」「横浜に送った認識はない」などと言われ、無責任なことやめるべき。本部や地本の許可を得ず、組合費をかけてはらまへの問題ははないか(横浜)▼討議資料について批判するような連絡があった。12地本の総団結内容上もつくり出す(東京)▼第37回臨時大会で、必要な規約・規則を変えたことが問題であり、3地本に対する指摘は大きな間違いだ(水戸)▼今後の青年部運動の将来を保障するためにも、財政の切り崩しは必要であることを中央常任委員会でも一致し、確認してきた(盛岡)▼昨年の闘争1号の交渉では、経営の論理を組合に確認させたものとなっている。19春闘では、原資をどれだけかち取れるかということである。大手産別が額要求の見送りを表明し、春闘のたたかいは変化している。大幅な上げを求め、春闘の歴史とたたかいは守るべきである。18春闘では、成果の押し付けを自分もしてきた。そのことを決して忘れず、職場の仲間と共に実践していく(横浜)